日本あちこち河川遡行記（第 245 回）

京都 1-2-2.鴨　川（その 4）後半　平成 30 年 6 月 9 日（土）晴

[続き]

やがて北北東から流れて来た「中津川」との合流点に着く。中津川に架かる県道橋の橋名は「出合橋」。今までどれほどの多くの出合橋に出会ったことだろうか？ここからは地形図でも「鴨川」と記載されている。

橋の拡幅部の角には何故だかベンチが置いてある。座って待って人と会うのは出会いとは言い難いのでこれはバス停のベンチと理解しておく。ここにも防犯カメラが目を光らせているぞ。

12.「出合橋」での観光案内地図　　13.出合橋の三叉路で「中津川」と出合う

直ぐの集落を越えると谷間が更に狭まり人家が無くなる。対岸の作業所らしき所に向かう橋は単管を組み合わせた完全な仮設橋である。腕の良い鳶さんが居るのだなー。周囲には杉の森しかない屈曲部には「おおまがり」なるバス停が何故かある。

道路沿いに杉を根元付近で切った後に再び木が延びた集団が育っている。横から出て来た幹が直ぐに真っ直ぐに天に延びている。杉は重力を鋭敏に感じるのだな。

14.これぞまさしく仮設橋だ

15.根が残っていれば樹はまた生えてくる

屈曲を繰り返す谷間が続き南南東に向かう。道から川面が良く見渡せる所では川が 180 度回転しているのが分かる。規模と高さは断然異なるが阿波の祖谷川の渓谷を想い出す。

17.半円を画いて下って行く

16.川は大きく曲がり

どんどん進むと道際の杉林で各種重機を使って伐採作業をしている。他の杉の産地ではもっと大きくなってから伐採しているが、洛北では径が 30cm に満たない大きさで伐採をしている。

18.重機を使って伐採作業中

谷間が更に狭まり山の傾斜もきつくなると、多くの杉の樹が根元から倒れ川にまで落ちて来ている。大雨で根が浅い木が倒れている。近年日田などの杉の産地では大雨のため大規模な杉の倒壊が起こり、これが川を堰き止め、橋を壊している。早く大きくなる杉の樹を大規模に植えた人災ともいえる。

19.杉が大雨で倒れ川まで

20.大規模な杉崩れだ！

21.こちらは山崩れも起こっている

「大岩」地区に来るとあの「東海自然歩道」の絵地図が北の方向を左にして

有る。ここから沢を東に向かい「夜泣峠」なる峠を越えて支流の「鞍馬川」沿いの「二の瀬」までが自然歩道になっている。地形図を見ると多くの峠が散在している。数多くの複雑に入り組んだ川と山が多くの峠道を必要としたのだろう。

22.ここからは東海自然歩道

伐採された跡に杉の苗木が植えられ、鳥獣からの害を防ぐためかビニールの傘がさされている。

やがて東から支流の「鞍馬川」が現れ、県道 38 号もやって来る。大岩地区の堰から引いて来た水を利用した関電のミニ発電所が合流点に発電済みの水を放流している。合流点の直ぐ南の県道の「十三石橋」の上からはこれらの様子が良く分かる。

23.ビニール傘をさした苗木達

24.左から鴨川、発電所の放流水、そして鞍馬川が合流

車の数が俄然多くなり道も 2 車線、歩道付きとなる。先日利用した市バスの庄田橋バス停からのバスの時刻が迫ってきたのでペースを上げるがポンコツ車の速度は上がらない。25 分ほど急ぎ足で歩きバス時刻の 5 分前に着きバスを待つがなかなかやって来ない。15 分ほど遅れて満員の中学生が乗った市バスが到

着。生徒が全員降りて発車。ドライバーが遅れは大勢の生徒の乗車に時間が掛かったとの説明をしてくれる。「まーしゃーないなー」。

北大路、京都、三宮、元町、神戸、姫路と乗り継いで帰路につく。遡行が早く終わり時間が有るので元町の大丸に寄り道をする。かつての勤務先の直ぐ近くなので懐かしい。岡山駅前のデパートの鮮魚売り場の親しくしていた店長が数か月前に大丸に転勤になったので立ち寄ってみる。居た～居たー、長身のイケメンが大声で客に呼びかけている。久しぶりの再会で店長も喜んでくれる。別の売り場で鱧の照り焼きと大阪の「あんぺい」を買って駅に向かう。鱧と言えば京都が有名だが、鱧のブランド産地は淡路島沖の紀伊水道で神戸も鱧料理はええでー。鴨川制覇したどー。

本日の歩行距離：9.6km。調査した橋の数：10。

総歩行距離：9,967.0km。総調査橋数：12,089。

使用した 1/25,000 地形図：「周山」（京都及大阪 6 号-1）、「京都西北部」（京都及大阪 6 号-2）